

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立魚津工業高等学校・教諭・安中 建城
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 生徒とのコミュニケーションスキル向上のための企業人との交流
- 4 研修機関等 富山経済同友会「教師と企業人との交流」
場所：株式会社インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

〈1日目〉

講演1 株式会社MGG 代表取締役社長 牧田 和樹 氏

講演では人間力についてお話しいただいた。リーダーシップとマネジメントは同じ意味合いで人をまとめることだが、細かく見るとリーダーシップは人を導いてまとめることであり、マネジメントは人を操りまとめることである。また、動かしたい人をスムーズに動かすためにはその人が簡単に動けるわかりやすいレールを敷いてあげることが大切になる。また、相手を説得して動かすのではなく、相手を納得させることで、よりスムーズに動くようになる。相手に納得してもらうには、能力的、人間的な魅力を持ち、情緒的や論理的に対応することである。人に納得してもらうには、人間力が高い方がいい。人間力とは、人間性、知性、意欲から構成される。他者への思いやりや人脈の形成による人間関係の構築や、自身の存在意義の確立などそれぞれが絡み合い人間力になっている。

この講演を聞いて、リーダーシップはビジョンや人間関係に焦点を当てるのに対し、マネジメントは計画や効率に焦点を当てることで、互いに補完的な関係にあることを知った。また、相手と対話をする事の大切さや、人を動かすときの考え方を学んだ。

日頃、生徒へ指示を出す際に相手の説得を意識していたが、説得ではなく納得してもらうことを意識して指示を出すようにしていきたい。

講演2 YKK株式会社 副社長 黒部事業所長 小林 聖子 氏

講演では自分らしく働くことについてお話しいただいた。初めにYKK株式会社の企業理念やコアバリュー、事業案内についてお話があった。その後、小林様のキャリアや考え方のお話があった。お話の中には、キャリアとはどういうものか、自分らしいとはどういうことかなど生徒や自分にとっても学びにつながるようなお話があった。

この講演を聞いて自分らしくとはどういうものか、考えを深めることができた。まず自分らしさを知るために様々な体験をして、自分の得意不得意を理解し、自分のやりたいことを見定める。その上でやりたいことをするためには、無意識の偏見から出るネガティブな考えではなく、ポジティブな考えを持つことや、どんなこともできるように日々のアンテナを鋭くしておくことなどの教えを頂いた。そのなかで私は、「来た舟に乗る」ことが一番大切だと思った。チャンスが来たとしてそのチャンスをものにするためには行動するしかなく、もしチャンスが来たときに行動できるように、日頃から何事にも飛びついていかないといけないと思った。

講演3 株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏

講演では出雲様がなぜミドリムシに興味を持ったかの理由から始まり、変化に対応する組織の特徴や成功するための秘策についてお話しいただいた。お話の中で、日本の特徴として前例にこだわることなどの経験則、メジャーになるまでに努力し続けるコツなど多くの学びを与えていただいた。

この講演を聞いて、努力することの大切さや繰り返し努力することが大切であることを学んだ。また、競争している限り1番でなければいけなく、2番になると途端に注目されなくなってしまうことや、繰り返し努力し分析することで、少しずつ成功する可能性が高まっていくこと、「アンカー」となるトロフィーなどの失わない目標と、「メンター」と呼ばれる相談者や目標とする師匠となる存在があることで、人間は努力を続けることができるようになること伺った。私たち教員は努力し続けるために必要となる相談者になれるように日頃のコミュニケーションをとることで、生徒がよりよい人生を歩むことが少しでもできるようになるのではないかと考えた。

〈2日目〉

アクティビティ研修

アクティビティ研修では、株式会社フクールの新入社員が実際に取り組む研修をチームに分かれていくつか体験し、その後に教員の視点での振り返りを行った。アクティビティとしては、チーム全員で手をつなぎ輪となった状態でフラフープをくぐり一周する時間を競い合う、目隠しをしながらテントを設営するなど、全部で3つのアクティビティを行った。これらのアクティビティ研修はチームワークや問題解決力を養うことを目標として行われた。振り返りの際に、人が育まれるためには、思いやりの精神が大切であるという話題が出てきた。その際に思いやりはどのようにして生まれてくるのかを皆で考えた。人から受け取った愛を他人につないで行くことが思いやりとして現れるのではないかと意見が出た際に、自分の中にストーンと落ちた感覚があった。

人は「誰かにしてもらったから、他人にもしてあげよう」と考えることが多く、日常生活の中でもそういった考えのもと動くのではないかなと思う。しかし、誰かに「してもらった」と考えられないと「してもらった」こと自体に気付かなかったり、「してもらって当たり前」と考えてしまう。そのため、人が生活環境の中で感謝、思いやりの精神を持って成長するためには、愛情を受け、また受けていることに気がついていのかどうか重要なのではないかと考えた。

〈調査研究課題について〉

今回の研修で、自分の課題である生徒とのコミュニケーションの取り方について、1日目の牧田様の講演では、人間関係の構築の手段として、思いやりを持って接することが大切になるとお教え頂いた。2日目のアクティビティ研修では、目隠しでテントを立てた際に、目隠ししている側が動きやすいように細かい指示をいただいたお陰で、スムーズにテントを立てることができ、思いやりの大切さを肌で感じた。

以上のことから、生徒とコミュニケーションをとる際に、思いやりを持つことを心がけたい。日頃の学校生活でこまめに生徒を褒めたり、感謝の言葉を伝えたりしていたが、思いやりを持って接しきれていなかった。相手の立場に立つことが大切になるので、二学期以降気を付けな

がら生徒と接していきたい。

最後になるが、このような研修を開催していただいた富山経済同友会に感謝申し上げるとともに、今回学んだ内容を少しでも多く生徒に還元できるように努力していく。